

第1回徳島市新ホール整備検討会議 議事録(要旨)

日時 平成30年10月12日(金) 午後2時～午後3時45分
場所 中央公民館 302会議室
出席者 19名(委員8名、事務局ほか)
傍聴者 1名

1 開会

2 市長あいさつ

新ホールについては、昨年駅西側駐車場を候補地として検討してきました。まちづくりや交通アクセスの利便性、公共交通機関の利用促進でのメリットは大きいものの、概算事業費が高額となり、整備期間も長期にわたることに加え、市内に1,000席以上規模のホールがない状況を一刻も早く解消して欲しいとの切実なご意見を頂戴したことも重視し、熟慮を重ねた結果「見直す」ことを判断しました。

文化センターが閉館し、3年以上が経過しており、市民の皆さまの文化芸術の発表の場や鑑賞の機会が減少し、大変ご不便をおかけしていることを重く受け止め、本市の文化振興における空白期間をできる限り短くするため、早期の整備が期待できる「文化センター敷地」において新ホール整備の検討を行うことを、先の9月議会において報告しました。

この検討会議は、12月議会での新ホールに関する整備方針案の提示に向け、専門的見地からのご意見をいただくために設置するもので、新ホールは「市民の芸術文化の創造拠点」として、本市の文化振興のために必要な施設であり、早期の整備に向けての最良の方策についてご議論いただきたい。

3 委員及び事務局紹介

4 設置要綱について

事務局

資料1 徳島市新ホール整備検討会議設置要綱 説明

5 会長・副会長の選出

委員互選により会長に山中委員、会長指名により副会長に吉森委員を選出

山中会長

徳島市のホール整備については、これまで4回見直しをしている。長年関わっているが、最後まで責任をもって臨みたい。

吉森副会長

平成9年から検討が始まり、20年あまり検討をしている。お金の問題と土地の問題があるので、我慢をしなければならない部分もある。まずは、メインとなる大ホールとリハーサル室の整備を優先し、良いホールを造っていただきたい。

6 スケジュールについて

事務局

資料2 新ホール整備検討会議開催スケジュール 説明

7 議題

(1) 徳島駅西側駐車場での検討結果について

会長

議題1 「徳島駅西側駐車場での検討結果」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

資料5 ページ～ 資料3-① 徳島駅西側駐車場での検討結果について 説明

資料23 ページ～ 参考③ 文化団体等のヒアリング結果 説明

資料7 ページ 参考 徳島市の財政状況について 説明

(2) 今後のホール整備の考え方

会長

議題2 「今後のホール整備の考え方」について、説明をお願いします。

事務局

資料9 ページ～ 資料3-② 今後の新ホール整備について 説明

資料16 ページ 参考① 文化センター敷地及び旧動物園跡地の比較 説明

資料19 ページ 参考② 新ホール整備にかかるこれまでの議論等の経緯 説明

A委員

これまで、「音楽・芸術ホール」の整備として検討されていた時期があったが、現在は「新ホール」の整備なのか。

事務局

ホールの名称については「音楽・芸術ホール」や「新ホール」などの呼称があったが、最終的にホールの性格を考え「新ホール」としている。

A委員

「音楽・芸術ホール」というのは、いわゆる「芸術劇場」に値する。「文化センター」というのは、市民の発表の場と認識している。

市民の発表の場にするのか、音楽・芸術ホールにするのかにより、整備する中身が大分違ってくる。そこを先に決めておいたほうがいいのではないか。

文化振興ビジョンにもあるが、ホールは単にホールだけがあればいいのではなく、市民が活動するための場所も必要になってくる。ビジョンに基づいたホールをどうつくるかを考えなければ、20年も検討してきたホールが「こんなものか」となってしまう。

また、財政が逼迫しているという話だが、これまで整備を検討してきて、そのための資金が蓄積されていないのか。

事務局

名称については、「徳島市音楽・芸術ホール整備推進有識者会議（平成28年）」の中で「新たなホール」という表現になった。

建設資金については「芸術文化施設建設基金」を創設しており、現在16億円ほど蓄積されている。

会長

音楽・芸術ホールは最初ころで、その後に新ホールとなった。今は、新ホールという性格のものになっている。鑑賞を捨てるわけではないが、市民の発表の場の機能としても重要な場所だと思っている。

B委員

「音楽ホール」という名前はやめたほうがいい。名前でなく中身であり、音楽やバレエなどに使える必要があるので、市民が納得して支援してくれるような名前にしたほうがよい。今まで「音楽ホール」という名称には抵抗があった。

A委員

いわゆる「芸術劇場」「芸術ホール」となると、いろいろなものが上演される多目的なホールになると思う。

外部からいろいろな演目を呼んでくることを考えると、1500席以上ないと採算がとれない。あくまで市民の発表の場ならば、1500席は必要ない。

C委員

25年前、文化センターがまだ稼働している頃に「音楽ホール」という名称がでた。文化センターでは音楽がうまく表現できないので、もっと音楽が表現できるホールが欲しいということで最初はスタートした。

しかし、現在、文化センターがないので、発表の場がないことが一番の問題になっている。当然音楽ホールではなく、幅広く舞台芸術が全てできる場、発表の場が欲しい。アスティのように、マイクを使わないと表現できないというのは困る。

皆さんが使えるホールになれば、名称にはこだわらなくてもいいと思う。

D 委員

興行性、収入の話があったが、1800席では興行の面で良いだろうが、徳島の人口がどんどん減っている。おそらく10年前と比べ、クラシックや芝居をみる人口が毎年減っているだろう。

大きなロック系などの若い人向けのものは、アスティが他の地域のアリーナとかよりも比較的コンパクトであるということで、演者との距離が近く見えて、県外からも集客できている状況がある。

徳島市民、県民にとって使いやすいということ。私たちがホールを使って面白いことができるというのを優先してもらってもいいのではないかな。

例えば、クラシックコンサートを聞いてみたいと思うが、東京に行くのに2万5千円、3万円かける層もある。交通費をかけなくて徳島で聞けるならば、徳島でも2万円の席をつくってみたりして、採算をとる方法もあるのではないかな。

B 委員

だいたい1800席ないと有名なオーケストラはこないが、それでも最低1万円のチケット料金になる。

その値段のものが徳島で売れるかどうか。頑張って売らなければならない状態になってしまうだろう。

最大1500席、また1200席でも地元でやるものを満席にするのは大変である。

私は小ホールはいらないと思う。土地が狭いなら大ホールだけを整備し、小ホールは周辺の施設を活用していくというのでも良いのではないかな。

また、活動室は、徳島にはコミュニティセンターがたくさんあるので、そういったところを活動の拠点にできないかと思う。

会長

以前の会議では、そういったところと連携していくという話も出ていた。

E 委員

B委員の意見は賛成する。

追加で2点申し上げたい。やはり、早くつくってほしいという声があるが、それだけでなく、市民が自慢できるようなものをつくってほしい。

例えば、音響が優れたホールであるとか、徳島の木を活用したり、ジャパンプルーの藍を感じさせるようなホールや、あるいは徳島の青石を使ったホールなど。

市民が県外の人へ、こういう特徴があるホールだと自慢できるホールをつくってほしい。そういう案を出せば、法人個人問わず応援する人があると思う。

いま、市の予算のみでやろうとしているが、民間の資金を導入して整備している事例もあるので、そういった事例も検討しながら進めてほしい。

これから整備するので、市民が自慢できる先進的な特徴あるものをつくってほしい。

B委員

材木をつかうと音が素晴らしくなる。札幌の「コンサートホールキタラ」も福井の「ハーモニーホールふくい」もとても音が良い。

D委員

美馬市に今年オープンしたホールが、木でできており音の響きが良かった。500人くらいなのだが、ホールの大きさとしてもひとりの演奏者がやるには理想的だった。演者席から舞台を見たときにも美しいとおっしゃっていた。

F委員

県外から集客することで経済効果もあるだろうし、演じる側からみたら「あそこの舞台に立ってみたい」と思えることで、子供たちの育成にもつながる。自慢できるものをつくっていただきたい。

A委員

公共ホールの持つミッションについて、説明をお願いしたい。劇場法などもあるが、単にホールをつくって、発表するだけではだめなので文化庁も補助金を出している。

事務局（アドバイザー）

平成13年に文化芸術振興基本法が制定され、平成29年に改正され文化芸術基本法となっているが、その基本理念を踏まえて「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が制定されている。

基本法には、芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能、茶道や華道のような生活文化など、文化のカテゴリーが示されているが、その中で舞台芸術や音楽芸術について振興を図っていこうということで整備された。

それが、劇場のひとつのミッションを決める大きな礎となっている。

その第3条に8項目の劇場、音楽堂の事業が示されており、公演の企画や実演、施設の提供、普及啓発、他館との連携、国際交流、資料の収集、人材の育成や国籍、性別、障害の有無に関係なく、文化芸術に親しむというような社会包摂を実現するために、文化をどうやって活かすかということが、劇場、音楽堂に求められるミッションであるということが書かれている。

それらを実現していくために、具体的に何をしていくのかというのが、地方自治体あるいは芸術団体に求められている。

A委員

開館してからのランニングコストも結構かかる。公共ホールでもそうだが、専門家が入り、自主的な事業公演を計画してきている。いろいろな事業をやって、黒字がでるくらいの活動をしている施設もある。そういった人材を育成していかないとけない。専門家がホールに必要とされる状況になってきていると思う。

事務局（アドバイザー）

先程「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」に示されているに指針を紹介したが、これまでは、どちらかという、施設を整備し、広く平等に市民に使ってもらうのが公共文化施設のミッションだと思われていた。

これからは文化を振興するために、施設側が意識をもって何をしているのかが問われている時代になっている。そのために地方自治体が予算をつける。それは文化を振興していくための種として、税金を投入していくのが、これからの文化施設のあり方と考えられる時代になってきている。

会長

そういう施設をつくらないと、ただ貸しているだけでは駄目だということ。運営にきちんとそれなりの金がまわるように考えないと、つくった後に運営費が無いということになるとホールをつくる意味がない。人件費も重要である。

G委員

文化センターの敷地は制約が多い。これから何があるかわからないが、埋蔵物など不利になる状況が起こってしまった場合は、旧動物園跡地ということになるのか

事務局

文化センター敷地で進めたいと考えている。

G委員

敷地の広さから考えれば、小ホールなどが入らないだろうと不安に思っていたが、B委員の意見を聞いて安心した。徳島ならではのホールが欲しい。

以前、新聞に駅西に決めたのならやめるなという投稿が載っていた。なぜもっと詳しいことを調べなかったのか、委員にも責任があるという内容だった。やはり一般の方はこういう会議をひらいているなら最初から分かっているだろうと思う。方向性が違うなら動物園跡地も可能性があるのかと質問させていただいた。

また、華美な施設はいらない。この地域に似合う施設で充分だろう。

D委員

先程、A委員が言っていたソフトの部分にストーリーをつくるといい。

音響照明、例えば舞台準備。プロの方は慣れているがアマチュアがするとき、そこがハードルになる。そのソフトの部分ホールとして、たとえばチームとして持っていて、素人の人がコンサートをするときサポートをいただけるなど、自由にできるチームがあると、芸術というものがソフトの面で支えられて非常にありがたいと思う。

(3) 文化センター敷地の現況と課題

事務局

議題3 文化センター敷地の現況と課題について

13ページ～ 資料3-③ 新ホール建設候補地の概要 説明

B委員

動物園跡地は考えないで文化センターだけでいいのか。

事務局

文化センター敷地でのご意見をいただきたい。

B委員

都会ではホールの近くに駐車場はない。駅から10分15分歩いていくのが当たり前のところがある。徳島でもあそこは歩いて行く場所と考えていただければと思う。

A委員

確かにアクセスの課題は大きい。入るときはいいが帰りは人が集中する。しっかりと考えねばならない。

また11tトラックが、2台ないし3台入るという状況がある。搬入口をどこに持ってくるかが課題。線路との関係も考えないとならない。また文化センターは線路の近くにあることが知られていた、特別な音の遮断の配慮が必要だ。

事務局

駐車場については、敷地内に来館者用の駐車場は難しいと思うので、周辺も含め考えていかねばならない。主催者用、搬入トラックは確保したい。そこについてはご意見をいただいでいきたい。

会長

本日の議題は、すべて終了したので事務局にお返しする。

事務局

以上で「第1回徳島市新ホール整備検討会議」を終了する。

以上